

# 全国消防服装協会総会・懇親会 小林会長、通達に伴い発展努力をと挨拶 会場に消防殉職者遺児育英奨学基金の募金箱

全国消防服装協会（小林虎太郎会長）

では第三回定時総会を去る二月二十八日にスクワール麹町にて開催した。

総会では事業報告として、最初に昨年の東日本大震災の復興を祈り、つづいて消防服装業界について、震災による特需物件もあったが予算の執行の遅れできびしい状況にあると述べられた。

また、消防の広域化の動向に注目、そして、「消防隊員用個人防火装備ガイドライン」が五月に通達された、今後は消防職団員の更なる安全確保と消防服装装備の充実、市場・業界の発展に寄与すると述べている。

庶務事項で正会員一七社、特別会員一五社、賛助会員一社と報告された。また、ISO/TC94/SC14のジュネーブ等各部会会議への出席等が報告された。収支決算額は三、〇一八、一四五円で



小林会長の挨拶、右は司会の鷺山副会長

あった。

事業計画は前年度に準ずる。収支予算は一、二〇二、八一七円である。

午後五時から懇親会が開かれ、定刻に小林会長が挨拶、「総会も無事終了しました。昨年の東日本大震災とそれに伴う原発事故は未曾有の災害で亡くなった方の冥福と被災者にお見舞い申し上げます。服装業界も昨年五月の消防隊員用個人防火装備ガイドライン通達に伴い、現在目標に向けて頑張っています」と述べた。

次に来賓紹介に入り、椎名大介消防庁予防課課長補佐、若月薫消防研究センター（ISC）四国内対策委員会委員長、大江理一東京消防庁参事・装備課長、岩田知也日本消防協会常務理事、坂井秀司全国消防協会事務総長、新井雄治日本防災協会常務理事、後藤恭助同理事が会釈した。

つづいて来賓祝辞に入り、若月消防研究センター委員長が、「日本の消防服装装備がニュージランド会議を引っくり返し審議にもつていきました。ユーズー、供給者ともに日本の規格を世界の規格にするというところでやっています。意見も聞き入れてくれます。日本の規格が世界の規格になるよう努めています。消防隊にも今までなかったものを着させたいと願っています」と述べた。

ここで芳賀博一特別会員の音頭で乾杯が行われ懇親に入った。会場には東日本大震災の消防殉職者遺児育英奨学基金の募金箱が設けられた。最後に今莊政明副会長の中メで散会した。